特集2 名松線にSLを走らせる会

◆名松線にSLを走らせる会とは

◇設立のきっかけ

2009年12月、美杉町出身の村田義信さんは、夏以降バス代行運転が続く名松線・家城―伊勢奥津間の状況に心を痛めていた。地域のために熱心に活動する友人、黒宮英二さんに相談し、二人は同線再生のための市民活動を始めることを決意。

民間企業であるJR東海に復旧を申し入れるには、確実に利用客の増加が見込める取り組みの提案が必要だと考えた二人は、静岡県の大井川鉄道をはじめ、栃木県の真岡（もおか）鉄道、埼玉県の秩父鉄道、JRも北海道、東日本、西日本が蒸気機関車（SL）を運転し、鉄道ファンを中心に多くの観光客が集まっていることに注目した。そして、同線にも昔のようにSLを走らせ、観光路線として復活させられないか?と考え、「名松線にSLを走らせる会」の設立を思い立った。

◇地域活性も大きな目的

同会の目的は、名前の通り、名松線にSLを走らせることだが、その奥には、地域観光産業の振興と地域の活性化の実現を通じて、元気な津、元気な地域づくりへの寄与にある。そして、それによって、同線の早期全線復旧を図りたいと考えている。

◇設立説明会

10年1月23日、福田正興さん（ココパリゾートクラブ白山ヴィレッジゴルフコース代表取締役）など、地元美杉・白山地区の業者を中心に十七人の発起人を集め、同会設立のための説明会を開いた。沿線住民ら三十人の参加者に、設立趣旨や活動計画案を話した後、第1回勉強会として、パネルやスライドを利用しながら、日本のSLの種類やSL復活への問題点などを紹介した。

◇写真パネル展

一人でも多くの人に同会の活動に関心を持ってもらいたいと、名松線の写真パネル展を企画。同年3月4日から12日まで、「イオン津南ショッピングセンター・サンバレー」（高茶屋小森町）で、同月21日に「メッセウイング・みえ」（北小路町）で開催した。

美杉地区の写真愛好家が保管していたSL「C11型」の写真や、昨年10月の運休前の様子、四季折々の沿線の風景写真などを展示したところ、なつかしい景色に見入る多くの来場者でにぎわった。

◆名松線全線開通75周年記念イベント

今年12月5日で、同線は全線開通75年を迎える。同会では、この日に一大イベントを行いたいと構想中だ。会員の小竹裕樹さんからは以下の提案がなされている。

＊リバイバルカラーの記念列車

鉄道ファンの間では、JRになってから塗り替えられた国鉄型車両が当時の塗装で復活し、人気を集めている。

＊ヘッドマークの掲出

鉄道車両では車両や列車・系統番号などを示すために先頭部などに取り付ける板や方向幕のことをヘッドマークという。デザインを一般に募集するのも楽しいかも?

＊記念切符・グッズの販売

ファンの間では、「硬券」という、硬い厚紙で作られた乗車券が人気。また、その時にしか手に入れられない記念グッズはファンでなくても魅力がある。

＊記念駅弁の販売

旅の楽しみは何といっても駅弁。包み紙も旅の記念の重要アイテムとなる。

＊この他、ミニSL運転や撮影会、ポスター・キャラクター募集なども考えているが、村田さんは「アイデアがあれば、ぜひ聞かせてほしい」と話している。

◆ホームページ紹介

インターネットでも情報を提供しようと、ホームページを開設。http://www.smmnet-1.com/sl/

名松線の歴史やマップ、同線をかつて走っていたSLの紹介、同会の設立趣意書や発起人・会員の名簿、活動案内、津の町紹介などを載せ、入会申込や問い合わせフォームも用意している。ぜひ一度アクセスを!

お問い合わせは、代表世話人の村田さん・FAX059（235）4388まで。

◆名松線の紹介

名松線は、松阪市の松阪駅と津市の伊勢奥津駅とを結ぶJR東海の鉄道路線。当初は、名張と松阪を結ぶ計画で、両市の頭文字を取って命名されたが、参宮急行電鉄が現在の近鉄大阪線・山田線にあたる桜井駅―山田駅（現・伊勢市駅）を先に開通させたため、伊勢奥津まででとどまってしまったという。

2009年夏の台風18号の災害後不通になり、同年10月、JR東海は、被害甚大の家城―伊勢奥津間については復旧をせずバス輸送に切り替えることを提案した。地元では住民の貴重な足として、存続を求めている。

●名松線路線地図

◆なつかしの名松線

1929年、松阪―権現前間の開通を皮切りに、35年に、43・5キロの全線が開通した。

開業から65年の9月まではSLが活躍していた。

その名残として、伊勢奥津駅には今も「給水塔」が残る。SLには水が不可欠。特に、同駅付近は急勾配で、その上、当初の計画の終点・名張までには、さらに急な峠が続くため、ここに「給水塔」が建設されたそうだ。

SL廃止後は、撤去される予定だったが、地元の人たちの熱意で残された。40年以上経つ今も、往時を忍ばせる同駅のシンボルとして、鉄道ファンの心をとらえて離さない。

●伊勢奥津駅前

●C11345

◆キハ系とは

「キハ」はJRが国鉄の頃から使っている形式記号。

「キ」は、「気動車」の意味で、ディーゼルエンジンがついている車両のこと。

「ハ」は、使用車両の等級や利用目的を表す記号で、三等車、現在の「普通車」に使われる。

左の写真の車体の「朱色」は、当時の国鉄カラーだ。

●比津駅春

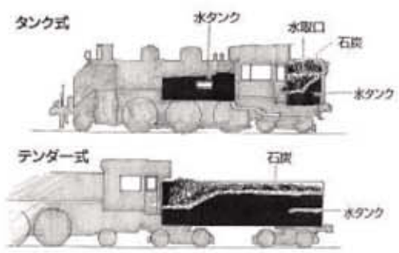
◆C11 345の説明

C 11 345

345とは製造番号。

11とは炭水車をつけていないタンク式機関車を意味する。（10～49はタンク式機関車で炭水車をつけていない機関車をいい、50～99はテンダー式機関車で炭水車をつけている機関車のことを意味する）

Cとは動輪の軸数が3軸であることを意味する。（A：動軸の軸数が1軸、B：動軸の軸数が2軸、C：動軸の軸数が3軸、D：動軸の軸数が4軸、E：動軸の軸数が5軸を表す）



◆名松線に魅せられて

のどかな田園地帯から、やがて深い山の中へ。雲出川の清らかな流れと四季折々の風景、昔なつかしい腕木式信号機や給水塔など、魅力いっぱいの路線だ。

●比津・伊勢八知間

●比津・伊勢八知間

●家城駅にて